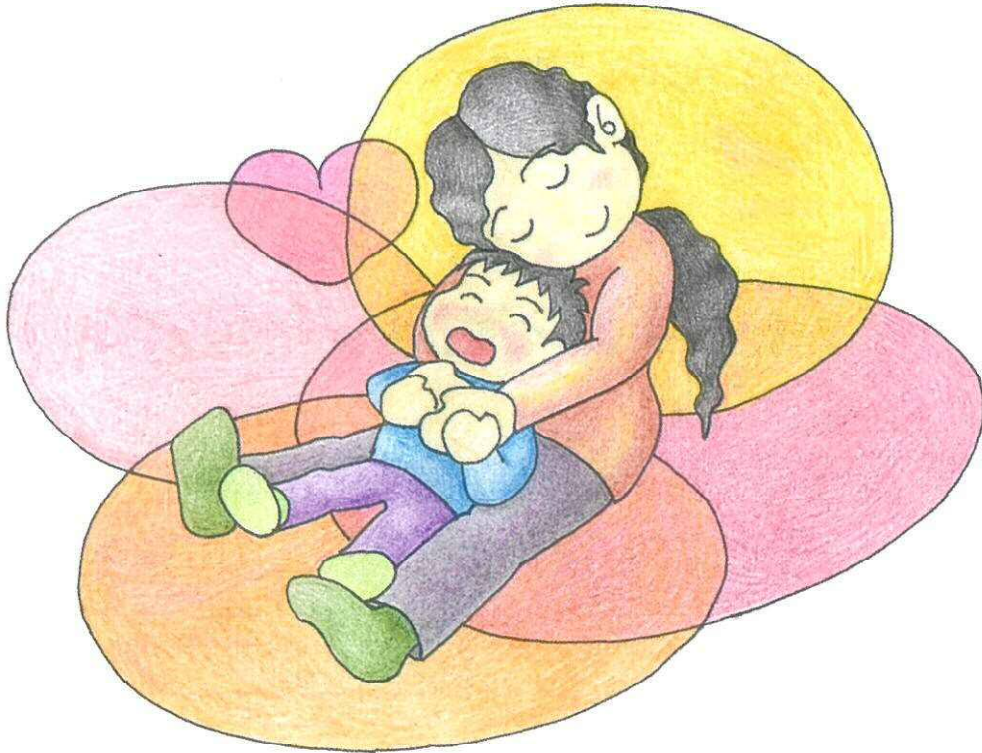


～すべての子どもたちのために～

特別支援教育

一人ひとりが大切にされ、
一人ひとりの可能性を引き出し
一人ひとりが自信と意欲をもって
生きていけるようにするための教育



このリーフレットは、特別な支援が必要な子どもを含めたすべての子どもたちが、安心して幸せに生きていくことができる環境の実現を願って作成しました。

子どもたちは生きていく過程で、様々な困難にぶつかります。特に障がいのある子どもたちには、うまくいかないことや困ってしまうことがたくさんあります。私たちが、子どもたちのことをよく知り、子どもたちにうまく接することにより、一人で乗り越えていけることがたくさんあります。

学校や家庭において、私たちは大人として何ができるのか、今一度一緒に考えてください。

令和2年3月31日

名張市特別支援連携協議会

特別支援教育は、子どもたちが「自信」と「意欲」を
もてるようにするための教育です。

子どもたちのもてる力をいかに発揮させるかが、重要なポイントです。

<子どもが力を発揮できるように>

①子どもに声の届く大人にないましょう。

まずは、信頼関係です。子どもを信じること、子どもを認めること。ありのままの子どもの姿を受け入れていきましょ。信頼している人の声は、子どもの心にまで届きます。

②子どものことを正しく理解しましょう。

うまくいかない時は、子どもが何かに困っています。そこを、理解しましょう。

③合理的な配慮をしていきましょう。

子どものニーズに応じて、その子が力を発揮できるための環境を整備したり、関わり方に配慮したりすることです。家庭でも学校でもこの配慮は必要です。常に、「子どもの力を発揮させるには。。。｣という視点で、子どもに関わりましょ。

④正しく学習させてあげましょ。

うまくいかないこと、失敗したことを叱るだけでは、子どもは正しく学べません。自信をなくすだけです。どう考えればよいのか、どう振る舞えばよいのかを教えていましょ。

⑤おおいに褒めましょ。

うまくいったとき、努力しているとき、おおいに褒めてあげましょ。「自信」と「意欲」は、大好きな人に褒めてもらって育っていきます。

⑥いつか花が咲くことを信じて！

「自信」と「意欲」を失わなければ、きっと自分にあった道が見つかるはずです。



パーソナルカルテをご活用下さい。

パーソナルカルテは、支援の必要なお子さんが、安心して一貫した支援を受けられるよう、支援の情報をスムーズに引継ぐためのものです。

お子さんのプロフィール、成長の記録等を記入し、各関係機関等の相談や支援を受ける際、福祉や医療サービスを受ける際、就学時や進学時、就労への引き継ぎ時等、学校や相談支援にあたる関係者に提示することにより、本人のできることやこれまでの支援の経過など必要な情報を共有することができます。

各関係者等がもつ情報を添付したり、綴じ込んだりすることもできます。

パーソナルカルテは、名張市内小中学校、名張市役所、名張市子どもセンター等でもらっていただけます。

パーソナルカルテ

関係者の皆様へ

このカルテは、お子さんの成長や学習の記録を蓄積するための記録簿です。関係機関との連携を促進し、支援の質を向上させるためのツールとして活用していただきます。

パーソナルカルテの活用方法について

このカルテは、お子さんの成長や学習の記録を蓄積するための記録簿です。関係機関との連携を促進し、支援の質を向上させるためのツールとして活用していただきます。

パーソナルカルテの活用方法について

このカルテは、お子さんの成長や学習の記録を蓄積するための記録簿です。関係機関との連携を促進し、支援の質を向上させるためのツールとして活用していただきます。

パーソナルカルテの活用方法について

このカルテは、お子さんの成長や学習の記録を蓄積するための記録簿です。関係機関との連携を促進し、支援の質を向上させるためのツールとして活用していただきます。

各機関



お子さんの成長や学習の記録を蓄積するための記録簿です。

見通しのもちにくさ

経験したことの無いことをイメージすることが苦手です。そのため、見通しをもちにくく、そのことによって不安になることがあります。また、変化への対応も苦手で、急な予定変更には混乱してしまいます。展開がわかりにくい状況が、強いストレスとなります。

運動の苦手さ、不器用さ

体を大きく動かすこと（例：歩く、走る）や指先の細かい操作（例：はさみで切ったり、箸を上手に使ったりする）に課題のある場合が多くみられます。したがって、体の動きがぎこちなかったり、字を書くのが苦手だったりします。

人に合わせて活動することの苦手さ

社会性に課題のある子どもたちは、人のペースで活動することが苦手な場合が多くみられます。これは、人の気持ちを読み取りにくいことや状況判断の苦手さに原因があると考えられます。

感覚過敏（暑さ、音、肌触りなど）

中には、体温調節がうまくいかずに、暑さや寒さに極端に弱かったり、音や味覚、触覚、においに過敏であったりします。逆に、痛さや寒さを感じにくい場合もあります。

指示理解のできにくさ

指示が理解できない理由もいくつか考えられます。①言っている意味が理解できない（話の一部分にこだわり、話の全体が理解できない）、②他ごとが気になって話の一部を聞き漏らしてしまう、③指示が自分に向けられていてもそれに気づかないなどです。

こだわり、思考のかたさ

基本的に試行錯誤は苦手です。自分なりに明確なイメージができていないことには、取り組みにくいようです。つまり、「とりあえずやってみること」ができません。

落ち着きのなさ、行動のブレーキが効かない

じっとりと活動に取り組むことができないことや、気になる物が目に入ったり、気になることが思い浮かんだりしたら、状況判断する前に体が動いてしまうことがしばしばあります。

必要な情報を一時的に記憶しておくことのできにくさ

人は、作業を行うとき、必要な情報を一時的に脳に記憶しておきます。例えば、買い物を頼まれた時は、買わなければならない物を覚えておかないと、頼まれたとおりの買い物ができません。物ごとを一時的に覚えておくことに弱さがあり、作業につなげられない場合があります。

特定の能力が極端に弱い（強い）

知的な遅れがないのに、物を見ること、書くこと、言語理解などが極端に苦手な場合があります。逆に、特に強い場合もあります。

発達障がいのある子どもたちが、意欲をもち、安心して活動に参加するためには、すべての人が良き理解者になる必要があります。すべての子どもたちの幸せを願いながら、ともに生活していきたいと思えます。



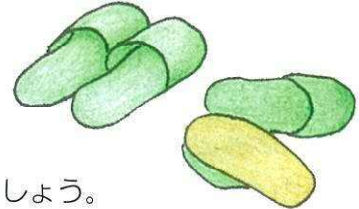
【大人として…どう振る舞うのか…】

こんな場面をイメージしてみてください。

あなたがお子さんと、何かの会合に行きました。そこは公民館で、スリッパに履き替えなければなりません。さて、帰ろうとしたとき、すでに帰った人たちのスリッパが脱いで置かれています。

- ① すべてのスリッパがきれいに並んでいたら・・・
- ② すべてのスリッパが雑然と置かれていたら・・・

あなたは、スリッパをどうしますか。



①の場合、よほど急いでない限り同じようにしていねいに並べて帰るでしょう。また、そんなところで、お子さんが無造作にスリッパを脱いでしまったら、「ほら、みんなきれいに並べているから、あなたもきれいにしなさい」と言うことでしょう。

逆に②の場合、お子さんが無造作にスリッパを脱いでも、何も言うことができないかもしれません。

これは、一例です。スリッパの並び方も一つの環境です。環境によって人の行動は変わります。子どもたちにとっての環境は大人がつくっていることが多いと思います。当然、子どもたちは大人をモデルにします。

子どもたちの中には、学級に居場所をなくしてしまっている子どもがいます。多くの学級には支援が必要な子どもがいます。いろいろな要因で力が出し切れていない子どもたちです。

そのような子どもたちには、振る舞い方の適切なモデルが必要です。

すべての子どもたちが幸せに生きていけるように、大人として、すべての子どもたちを育てるという意識で、子どもたちに接してください。もし、お子さんのクラスに気になる子がいるとしたら、お子さんに、よくわかるように話してください。

- ① その子どもたちが「困っている」という視点で、その子どもたちのことを理解してください。
- ② その子どもたちとどのように一緒に生活していけばよいのかというモデルを示してください。

期待する行動ができないことに対して、否定的にとらえ排除するのではなく、その子どもたちの困っていることに共感し、うまくできていないことに関しては、どう行動すればよいかを示唆するような声かけを心がけてください。

- ③ その子どもたちに対して、お子さんがうまく接することができたら、大いに褒めてあげてください。

例えば、「ノートを書くときに、いつも〇〇くん立ち歩くねん」と子どもさんが、あなたにいったら・・・

[良くない例]

困ったなあ。
そんな子いなければ、もっと勉強できるの
にね。

ではなく
……

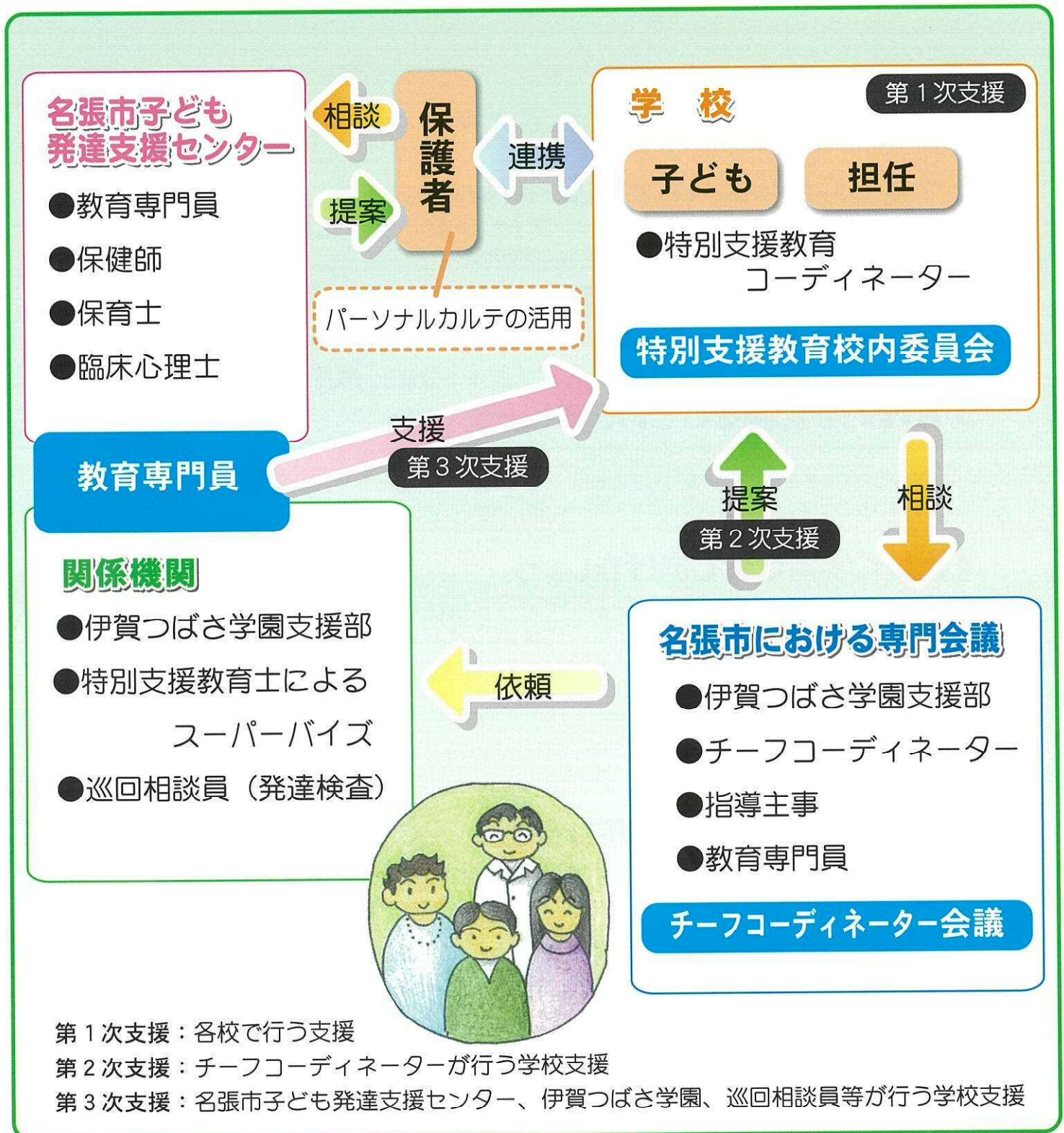
[良い例]

うまく書くことができないのかなあ「うまくいかない時は、先生に言えばいいよ」って言ってあげよう。

子ども
が言え
たら

良く言えたね。
きっとその子は
助かったと思う
よ。いいことで
きたね。

名張市小中学校特別支援教育システム



学校での支援については、担任が基本になります。

まずは、担任と十分に連携してください。その後、名張市小中学校特別支援教育システムに則り、より専門的な支援を構築し、子どもさんが学校で力を発揮できるように進めます。

すべての子どもたちが 健やかに育つために

【家庭で子どもと向き合うときの重要なポイント】

① 規則正しい生活とバランスのよい食事を心がけましょう

早寝、早起き、朝ご飯、子どもが学校で安定して生活するために不可欠です。眠いとき、空腹なときイライラしたり、集中できなかったりするの、大人も子どもも同じです。1日のリズムは、変化のない方が子どもは安定します。いつもとリズムが違う場合には、あらかじめ理解できるように示すことも有効です。1日の流れの中に、宿題を含め学習する時間も確保してください。また、朝食を中心にバランスのとれた食事は、落ち着いて1日を生活させる基本になります。

② 適度な運動をしましょう

姿勢が悪いと集中力が低下するようです。立っているときも座っているときも姿勢をよくすることが望めます。しかし、それは、日々の積み重ねにより獲得できる力です。様々な体の動きを体験することにより、バランスのよい体ができていきます。普段から、適度な運動ができる環境を整えてください。



③ 子どもと向き合いましょう

子どもの内面を探ることは簡単なことではありません。表情や仕草から伝わってくることもたくさんあります。しかし、やはりコミュニケーションを大切にしてください。まずは、子どもの話にじっくり耳を傾けましょう。大切なのは、短い時間でも、子どもと向き合っ、「あなたの話を聞いているよ」ということが伝わるように聞くことです。話しすぎる子どもには、時間を区切って聞くようにするとよいでしょう。

④ 家庭でのルールを徹底しましょう

社会や学校にもルールがあるように、家庭にもルールは必要です。子どもの思ったとおりに家族が振り回されることは、避けてください。初期対応を誤り、子どもの要求を通してしまおうと、子どもが間違っして学習をし、子どもの要求がエスカレートすることも考えられます。良いことは良い、悪いことは悪いということを大人から子どもに発信していきたいです。

⑤ 適切な言葉かけを心がけましょう

ともすると気になる行動ばかりに目がいってしまい、注意したり、苦言を呈したりすることが多くなりがちです。できてあたりまえと考えるのではなく、うまくできているときにこそ、その状態を言葉にして子どもに伝え、褒めてあげてください。うまくいかないときもあると思います。その時は、叱るのではなく、そのことが残念だったということと、次にどうすればよいかを根気よく伝えてください。そして、うまくできたときに大いに褒めてあげてください。

⑥ わかりやすい環境設定をしましょう

カレンダーに行事予定を書き込む、1日のスケジュールをホワイトボードに示す、机の上の整理の仕方を図示するなど、目で見てわかるような環境設定をすることにより、落ち着いて行動できることもあるようです。

また、中には話が聞き取りにくい子どももいます。端的にわかりやすく話してください。イラストを描きながら話すとよりわかりやすいこともあるようです。また、「ちゃんと」「きちんと」などの言葉はあいまいでわかりにくいようです。具体的に話してください。

(例)「ちゃんと片付けなさい」→「おもちゃをおもちゃ箱に全部入れようね」
「ちょっと待ってね」→「(時計を見せながら)長い針が『5』になるまで待ってね」

子どもが失敗しそうな時には、活動に入る前に、あらかじめ話をしたり、約束事を決めておいたりすることもよいでしょう。



⑦ 「家族の一員」を意識させましょう

家族の一員としての役割分担をし、役に立っているという意識を高めていきましょう。できれば、簡単に、毎日できるお手伝いがあるといいと思います。続けることが大切です。

⑧ 活動を手伝うときには、子どもに完了させましょう

例えば、子どもに片付けをさせたいときには、最初子どもにさせて、仕上げを大人がするのではなく、まずは、一緒に片付けを始め、残り(わかりやすいもので)を子どもに一人でさせ、「できたね」と、片付けが終わったことを喜び合ってほしいです。そこから、手伝う量を少しずつ減らしていきましょう。

⑨ 地域のイベント等に参加しましょう

各地域では、様々な催しがされています。自然や文化に触れるよい機会です。子どもの興味関心が広がる可能性を秘めています。外に出ていろんな活動に取り組んでほしいと思います。

⑩ 困ったときには関係機関に相談しましょう

「うまくいかないなあ」「心配やなあ」と感じたときは、すぐに相談してください。まずは、学校の担任や特別支援教育コーディネーターに声をかけてください。学校での様子と照らし合わせながら、一緒に支援の在り方について考えていきます。子どもが何に困っているのか、どうしてうまくいかないのかを判断するために、発達検査が有効な場合もあります。

また、医師による診断から支援が深まる場合もあります。いずれにせよ、子どもが困り切っしてしまい活動する意欲をなくしてしまうのが一番いけないと思います。早期に対応することが望めます。



子どもさんのことで困ったら

まずは、学級担任にご相談ください。

<その他、下記の機関でも相談を受け付けます。>

名張市子ども発達支援センター 62-1088
名張市教育センター 64-8801
名張市教育委員会事務局学校教育室 63-7882

【このリーフレットにかかる問い合わせ先: 名張市教育委員会事務局学校教育室 電話 63-7882】